

第2号様式(第12条関係)

令和2年度 第4回大和市文化創造拠点等運営審議会 会議要旨

1 日時 令和2年10月1日(木)午前10時～午後3時30分

2 場所 文化創造拠点シリウス6階 601講習室

3 出席者 委 員 7名

事務局 5名(文化スポーツ部長、図書・学び交流課長ほか3名)

4 傍聴人数 なし

5 議題 (1)面接審査の流れについて

(2)企画提案内容の説明(プレゼンテーション)

(3)審査会

(4)指定管理者候補者の選定

6 議事要旨

・委嘱状交付

机上天て委嘱状の配布を行つた。

・市長挨拶

大木市長より挨拶を行つた。

・委員紹介

各委員及び事務局の自己紹介を行つた。

・会長、職務代理の選出

会長、職務代理について事務局から説明を行つた後、それぞれの選出を行つた。

(1)面接審査の流れについて

・資料1について、事務局から説明を行つた。

(2) 企画提案内容の説明(プレゼンテーション) (公開)

・応募者やまともみらいがプレゼンテーションを実施し、その後に質疑応答を行った。

【質疑応答】

委員：新型コロナウイルスの影響により、人々の生活パターンが変わってきている。文化創造拠点の講座等は今まで待ちの姿勢だった。これから先のシリウスはこのままでいいと考えているのか。この事業計画のどこで、世の中の流れに対して沿っているのかをお尋ねする。

やまとみらい：情勢が変化している状況であり、明確な新しい方向性はこれから試行錯誤していくものと考えている。来館して、様々な体験や本の貸出をしていくと、密の環境を発生させてしまうことも想定されるので、十分な安全対策を取ったうえで施設を使ってもらうことをベースに、オンラインの施策を進めていきたい。具体的には、生涯学習センターのオンライン講座や研修、図書館での電子図書館である。電子図書館は貸出だけの機能ではなく、チラシを電子化し、掲載することもできる。電子図書館を工夫することで、来館が難しくても大和市の文化に参加できる環境を十分に作れると考えている。利用者のニーズを集めて発展する必要があると思うが、オンラインの利用が一つの答えになると考えている。

委員：大和市文化創造拠点だが、これからは大和市文化創造「発信」拠点となるべきである。図書館も電子図書だけでなく、一般図書も違う使い方を考えなければいけない。明日、明後日の話ではないが、今からでも準備をしていくべきである。

委員：これからは、数のアピールはいらないと感じている。七つの施設の融合がありそこから生み出される、目指すべき新たな大きな旗、シンボルを作り、新しい大和市民のふるさと、人を呼べる場所、居場所として育ててほしい。市民の満足度が約9割と出ていても、残り1割の不満足があることになる。その分析と更なる発展が必要だと思う。

雇用の面で、休日も少ないので、長続きするよう取組んでいって欲しい。PR はよくやっているが、いろいろな媒体を通じて、一層努力していただきたいと思う。

事務局：今のは質問ではなくご意見ということで良いか。

委員：よい。

委員：文化創造拠点等の中で市民への講座や参加者に指導するというのは、始めたばかりのころはそういうのがあってしかるべきであるが、これからに向けて、地域や学校との連携をする中で、子どもたちの発育、生きる力の育成活動というのを提案していただきたかった。仕様書の中に地域密着型というのがあったが、具体的にどのような活動を地域密着型としているのか。

最後のボランティアについて、とてもいい取組みだと思うが、ここが拠点であれば、市民、学校、ケアプラザ、院内学級などの要請にしたがって、グループのボランティアを派遣するようなものに育っていったらいいと思う。

やまとみらい：地域と密着した事業について、中央林間図書館の実績をご紹介します。中央林間図書館ではスペースがないため、ポラリスに図書館スタッフが出向いて、本の紹介をしている。障がい者施設との連携や、中央林間手づくりマルシェと連携して、フリーマーケットを楽しみにきた親子に対して屋外での読み聞かせの取組をしている。これも共同事業体での強みであり、取組を発展させて地域密着を進めていきたい。

市民ボランティア制度に関するご質問について、現在は私たちの事業を経験してもらうというところまでしか想定していない。グループボランティアとしてまで提案できる段階にない。参加されるボランティアのニーズを踏まえそういう活動ができるよう検討していきたい。

委員：こちらで募集するのもよいが、学校や保育園や幼稚園を活用するのもいいと思う。読み聞かせグループなどいろいろあると思うが、そういったところに登録してもらい、それぞれのニーズに応じて派遣していくというのが作りやすいと思う。

委員：待遇について低下したようなところがあるとして、新しく研修を設けるとしている。人の感じ方ひとつで評価は違うので難しい部分だと思う。この研修ではどんなことを企画しているか。

やまとみらい：99人に良い待遇をしても1人に心無い対応をしてしまうとそれがその施設の認識になってしまう。待遇については、共同事業体の各社がそれぞれでやっているが、それだけではなく、文化創造拠点等での共通認識を持つために、モニタリング結果を共有すること、専門的な待遇につなげていくことを計画している。

委員：そこにいる人が利用者であることを越えて、お互いが、お互いをどうとらえるか、考え方の違いはあれど、存在を共有出来てうれしいということになるのではないか。特に小さい子どもはそうだと思う。褒めるのはとても大事なことだが、話している内容はまわりの保護者も聞いているということを大事にしてほしい。そういったことも、待遇の中で気を付けていただきたい。自分を大事に思えない子どもが多くなっており、子どもだけではなく、待遇をマネジメントしてほしい。

委員：大きく三つある。一つ目は、資料を拝見して思ったが、文化を創造するという観点でどのように対応するか、大きな戦略が今一つ見えてこない。どのような戦略をお持ちか、考え方を聞かせ願いたい。

二つ目は、量から質への転換が求められる中で、質をどのように分析し、運営に活かしていくのか。

三つ目は、自由提案事業で電子図書館をあげているのは素晴らしいと思う。一方で、電子図書館サービスと「新しい居場所」の話があまり結びつかなかった。電子図書館の定義について詳しくお聞きしたい。

やまとみらい：順番は前後するが、まず電子図書館についてお答えする。電子図書館は、来館できない方へのサービスであるが、館内でも電子図書館の利用は可能である。読み聞かせをやりにくい時代となり、電子図書を使い画面に映すことで密を避けた読み聞かせが行え、電子図書館を居場所につなげることが可能となる。

やまとみらい：文化を創造する観点での対応だが、来館者数だけで評価をするのは足りないと考えており、評価として来館者数以外のオンライン事業の登録数や、来館していないが、配信した事業に参加した人数というのは一つの評価軸になると思うが、まだ試行錯誤の段階と考えている。

質の評価の運営への活かし方だが、やはりモニタリングアンケート、利用者の声を直接拾っていくのが重要で、地区館の存在が非常に重要と考えている。それぞれの施設の特徴を生かした応え方が必要になり、各施設の存在を意識して運営していきたいと思う。

委員：電子図書館について、今の説明でよくわかりました。

委員：質問ではないが、プレゼンと仕様書の感想として、非常に見やすく、わかりやすく、努力されたことを感じた。他の委員から出ていたが、量から質への転換というのはここだけでなく他の事業でもいわれていると思う。未来へ向けて、この期間中も一生懸命考えていただきたい。行政との関係もあると思うが、館内だけではなく外部との連携について、考え続けてほしい。

それから、利用者も少し大人になる必要がある。利用者側が寛容になる手立て、本を読むことでいくらかは寛容になるかもしれないが、これからを見据えて考えてほしい。すばらしいプレゼンで感服した。

委員：政策評価をすると、実績に対する今後の目標について数値目標が掲げられるが、今回こういう状況であり、今後数値を目標とするのは大変難しいことと理解する。他方で、これまでとこれからの違いを強調されることが比較的少なかったと思う。電子図書館について、パソコンなどで本を読むのは、民間の有料サービスもあるし、無料のグーグルブックスや国立国会図書館、青空文庫がある。その中で、やまとみらいが電子図書館にどのような独

自のコンテンツを載せていくのか。また、見る側が持っている機材や、それすら持っていない人に対して電子図書館は対応が難しく、新たな格差を生まないか。どのようなフォローをするのか考えがあれば教えてほしい。

多くの委員が話していたが、今の時代、何をもって事業が成功したと言えるのか、評価指針がわかりにくくなっている。この大きな危機下では、一緒に集まったり、本を読んだりということは公共空間ではできない。これからの公共文化施設のミッションについて、指定管理者から自己研修やリサーチをする機会があり、どのように考えているか。

やまとみらい：電子図書館の運用について、独自のコンテンツが作れるので、市民が主役となれるよう、健康都市大学の資料やチラシを優先に掲載するよう考えている。他にも試行錯誤できる部分があり、利用者のニーズをくみ取ってより良い形を目指したい。電子図書館が活性化することにより、出てくる格差について心配されていたと思うが、図書館でのタブレットの貸出しや使い方の講座を考えている。中央林間図書館では新聞をタブレットで提供しているので、実際に体験していただくことで意識の改善になることを検討していきたい。

これからの公共文化施設のミッションについては、試行錯誤の段階である。やまとみらいで重要視しているのは、利用者の声であり、アンケートやモニタリングの声を拾い、次のニーズを得て、発展的なサービスにつなげていくことが重要と考えている。

事務局：他に無ければ質疑を終了し、やまとみらいの方にはご退席いただく。

（応募者やまとみらい退席）

【仮採点】

質疑応答の結果を踏まえ、各委員に現時点での仮採点を記入いただき、事務局が集計を行った。

（3）審査会（非公開）

- ・事務局が集計した仮採点の結果をもとに、委員によって評価が分かれた項目を中心に意見交換を行った。
- ・意見交換の結果を踏まえ、各委員に最終的な採点を記入いただき、事務局が集計を行った。
- ・最終的な採点の集計の結果、合計評価点は、最低基準点の 360 点に評価者数（7 人）を乗じた 2,520 点を超えており、かつ最低基準点以上を付けた評価者の数が過半数を超えていた。

(4) 指定管理者候補者の決定(公開)

委員 : 文化創造拠点等の面接審査の結果について、審議会としての候補者を選定します。合格基準点2,520点を越えており、かつ最低基準点以上をつけた評価者が過半数をこえているため、やまとみらいが仕様書の要求基準を満たすと認め、候補者として選定したいと思うが、よろしいか。

全員 : 異議なし。

・その他

事務局 : 選定結果については、文書で市長に提出する。市長が決定した候補者については 12 月の議会に議案として提出する。議案の議決を経て正式な指定管理者となる。

委員 : 事務局が最終的な報告書を作るにあたっての調整は会長にご一任いただいてよろしいか。

全員 : 異議なし。

その他、事務局より次回会議の開催予定をお伝えし閉会。

7 会議資料

・資料Ⅰ 面接審査の流れ

・大和市文化創造拠点等運営審議会 委員名簿